

ICA（国際協同組合 同盟） 総会報告＝次号

ICA 総会（コロンビア）は、史上初めて労働者協同組合が本格的に登場するなど画期的な総会に。出席した日本労協連菅野正純理事長の報告、ご期待下さい。

日本労協新聞 ICA・ワーカーズコープ

10/5

(2005 年)

No. 713

URL: <http://www.roukyou.gr.jp> E-mail: info@roukyou.gr.jp

発行所
日本労働者協同組合連合会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館
☎ 03 (5978) 2190 FAX 03 (5978) 2192
毎月 5 日・15 日・25 日発行
会員外は 1 部 158 円 年 5670 円 (送料 7110 円)
郵便振替 日本労協連機関紙誌部専用
東京 00170-8-186765
編集人 松沢常夫



報告は所長ではない現場組合員が（横浜市従会館）

新清掃・守本方式

第1回 コンテスト

センター事業団は第1回「全国新清掃方式・守本方式交流集会（コンテスト）」を9月17、18日に横浜で開き、47事業所などから123人が参加しました。各事業本部から選出された14現場が発表、8現場が高得票を得ました。現場調査を経て、11月の全国代表者会議で表彰されます。（前号既報）

センター事業団は第1回「全国新清掃方式・守本方式交流集会（コンテスト）」を9月17、18日に横浜で開き、47事業所などから123人が参加しました。各事業本部から選出された14現場が発表、8現場が高得票を得ました。現場調査を経て、11月の全国代表者会議で表彰されます。（前号既報）

労働協の歴史の中で、清掃事業の分野で切り開いた「よい仕事」が花開いたのが新清掃方式であり、全組合員経営の基礎のうえに組合員の成長・発達、現場・事業所の自立をはかる取り組みとして生まれました。それが守本方式です。集会ではその典型を永戸理事長提起（続報）

長野市老人いこいの家6カ所
労働協、高齢協が連携指定管理者制度で受託
労働協は、指定管理者制度で初めての仕事を獲得しました。

福岡市から子どもプラザ
NPOワーカーズ
NPOワーカーズコープ（センター事業

団は、福岡市からも初めて事業委託を受けることが決まりました。福岡市東区に開設される「子どもプラザ」で、ワーカーズコープとしては3度目の挑戦。
福寿所長・長谷川祥さんの頑張りが大きく、「全国実績と商店街活性化に生かしたい」という企画が評価されました。
11月開始、4月から本格的始動です。

センター

「労協若者自立塾」スタート

千葉・芝山

地域での幅広い協同で、自立を支援 塾生・同世代のスタッフが共に支えあい運営

厚労省の「若者自立塾創出推進事業」の実施団体となったセンター事業団は、9月26日、千葉県芝山町で「労協若者自立塾」を開塾。入塾式には7名の塾生、父母、スタッフなど約30名が参加しました。塾生は千葉県内の他、神戸、長野からも。開塾後も見学や問い合わせが続いています。（定員20名、問い合わせ先は電話0479-772566）



（上）入塾式であいさつをする古谷塾長
（左）運営スタッフ

塾生、父母ら30名が参加 入塾式

入塾式では塾長のセンター事業団古谷副理事長があいさつ。
「若者自立塾は現在までに8ヶ所が開塾、労協は9番目となりま

す。全国的に塾生の募集が非常に困難で、わが塾も同様の困難に遭遇しています。7名の皆さんが大きな一歩をふみ出し、この場に

結果しました。労協若者自立塾においては、塾生をお客さんにならない、塾生が当事者、主体者として、関わっていただくこと

力により、演劇、歌づくりワークショップ、スポーツセミナー、農業体験等を行う他、ヘルパー2級や福祉用具専門相談員の資格取得をめざします。

また社会的自立というのは、仕事の有無だけでなく、精神的な自立が前提になると思います。そのために、運動をし労働をし、よく睡眠をとり、体温をあげ、活発な心身をつくることが重要ではないか、と思います。

翌日は、役割分担、掃除のレクチャー、外での物干し台づくりといった作業を体験。生活リズムを整えながら、みんなの話しあいを基本にし、活動をスタートさせていきます。



旧千葉県立芝山高等技術専門学校の建物を活用

をめぐし、幅広い協同を構築していきたい。そして、芝山の地域で若者が取り組むにふさわしい仕事おこしをし、卒業生が生きがいをもつて働ける場をつくりあげることができれば、と思います。

塾生の紹介後、芝山地域福祉事業所小澤所長があいさつ。「準備をしているなかでも、近くの農家の方にお米を安くわけていただいたり、就労体験の受け入れなどの話をいただいています。さまざまな体験を、仲間どうしで助け合いながら、行っていきたい。そして協力していただいている方々に対して自分たちは何ができるか、みんなと一緒に考えていきたい」とのべ、同世代の若者を中心に構成されたスタッフ5名が自己紹介を行いました。労協連古村専務が「この塾をいろんな発

見をする場に、みんなの手でつくりあげていただきたい」とあいさつし、閉会しました。その後は、塾生生活への順応、新しい生活習慣の確立についてのオリエンテーションを行い、全員で近くの圃場へ出かけ栗拾い。みんなで拾った栗はさっそく夕食の材料に。塾生も調理スタッフの鈴木さんと一緒に栗の皮やえびの殻剥きなどを手伝いました。夕食歓迎会を行い、初日は早めに終了。